

# 現代日本大都市における中国人の定住をめぐる居住と就労の実態把握と集住地域の変貌

キーワード：ニューカマー、技能実習生（特定技能）、暫住・定住、管理組合より人材派遣斡旋会社、新築のジェントリフィケーション

## ●研究背景・目的

中国の「改革開放」政策の実施に伴い、中国からの入国者数が急増し、来日外国人のトップに位置している。これらの中国人は、日本社会の各分野で静かに活躍し、徐々に日本社会に溶け込んでいる。このプロセスは決してスムーズなものではなく、異文化が日本社会に入ってくるときには、さまざまな問題が発生する。

それは主に3つの段階に分けられる。①包容力→②相補性→③共進化

地域包容力などの様態の1つである外国人の定住というインディケータとして、具体的な資料・データを整理し、実際にどのような定住プロセス、地域の環境の変化が発生したのかを解明する必要がある。

## ●研究内容

- ・中国改革開放政策実施後の労働力人口の流出
- ・日本入国管理政策の推移、日本監理団体の経営戦略と方針転換
- ・都市圏における中国人の集住とジェントリフィケーション
- ・中国送り出し機関の経営戦略と日本語教育
- ・中国人技能実習生の実態と定住意識

## ●研究の独創性

- ・これまでの研究：留学生などの暫住者を中心とする居住環境の変化を無視して居住者の属性に焦点を当てる公営住宅団地に居住する中国人を研究対象とする（似たような属性の調査対象者が集まる）
- ・本研究：暫住から定住までのプロセスを研究する高学歴・高収入のグループだけでなく、肉体労働をする低収入のグループも調査する土地利用の変化から中国人の定住が地域に与える影響を示す日中両国の人材派遣会社を調べることを通して、日本への人口流入、暫住、定住という諸要素を結びつけることができる

暫住から定住までのプロセスを研究する

高学歴・高収入のグループだけでなく、肉体労働をする低収入のグループも調査する

土地利用の変化から中国人の定住が地域に与える影響を示す

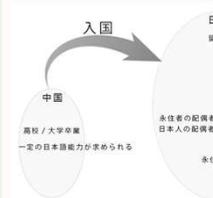
## ●研究の結論(一部)

現在、技能実習生は20代から30代の女性が中心となっている。近年、中国技能実習生の人数は横ばいで、ベトナムから来日した技能実習生は急激に増加している。これは主に、中国経済の成長により、出稼ぎの選択肢が増えたことである。日本には労働力が不足ため、日本と生活習慣が似ているベトナムが新たなターゲットとなった。中国からの技能実習生の多くは、中国東北から来ている。その中で、30歳以上の低学歴の女性が来日する主な原因は、離婚による経済的自立の喪失である。彼女たちは日本に定住する意欲も比較的高い。

中国人の集住が形成された最大の理由は、中国人同士とのネットワークにある。母国を離れて海外で生活する人にとって、母国同士とのやりとり、情報交流や相互扶助などがよく発生している。団地への入居理由で、環境、価格の要素以外に、友人からの紹介や中国人の営業マンに対する信頼が重要な理由であることが判明した。そして、そのような集住化には継続性がある。中国人が不動産を売ると、次の買い手も中国人である可能性が高い。

大阪市立大学・文学研究科 朱澤川

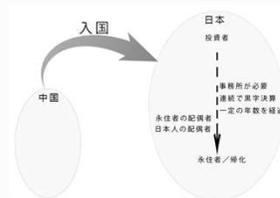
留学



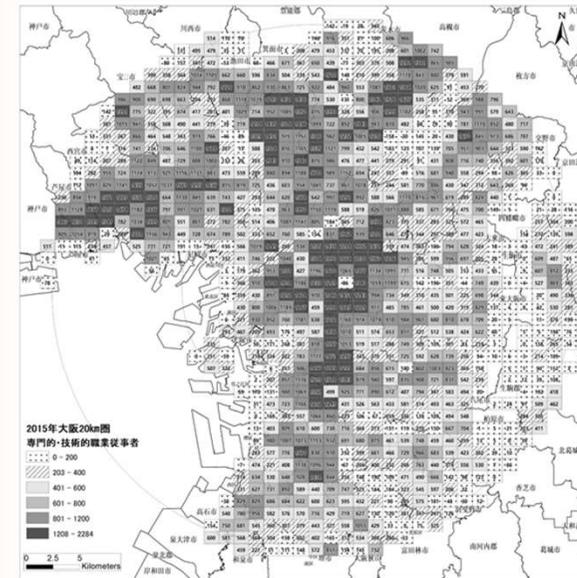
技能、技能実習生



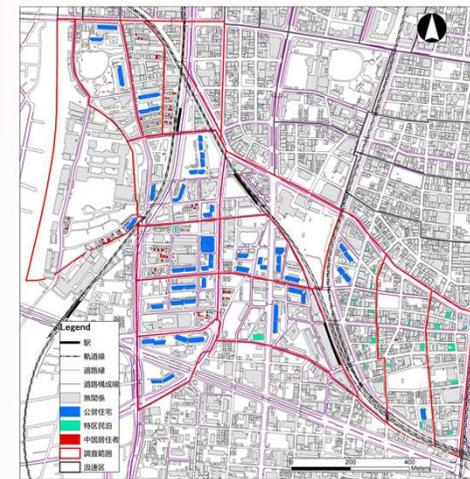
経営・管理



暫住から安定した定住へのプロセスは、通常8~10年かかる



外国人の定住は地域住民の属性に大きな影響を与えた



中国人同士とのネットワークは集住化の成立要因の一つである